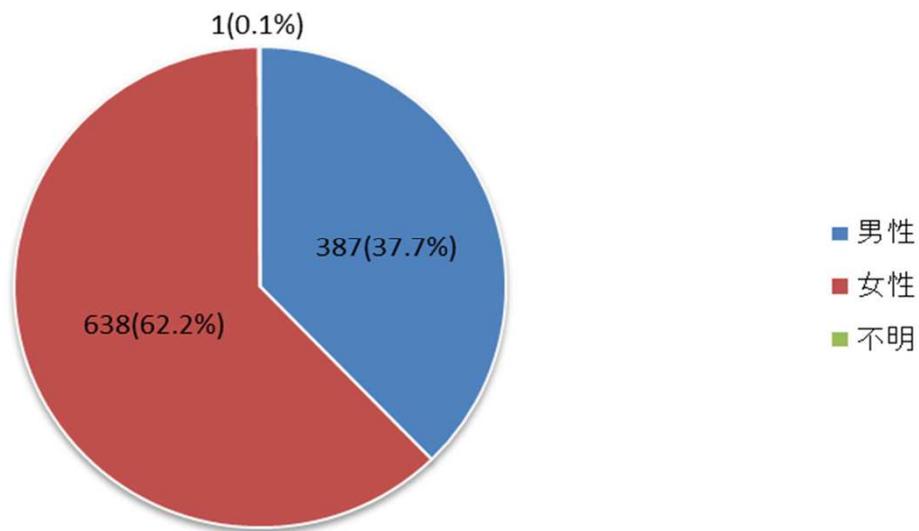


第9回eモニターアンケート「被災地ボランティア活動支援事業について」

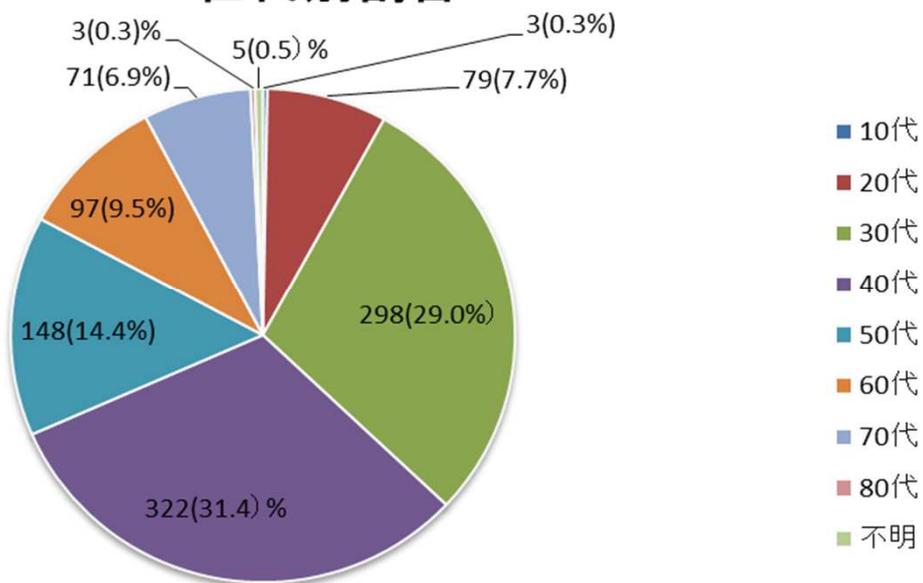
実施期間
回答数

平成27年10月26日 ~ 平成27年11月4日
1026 人

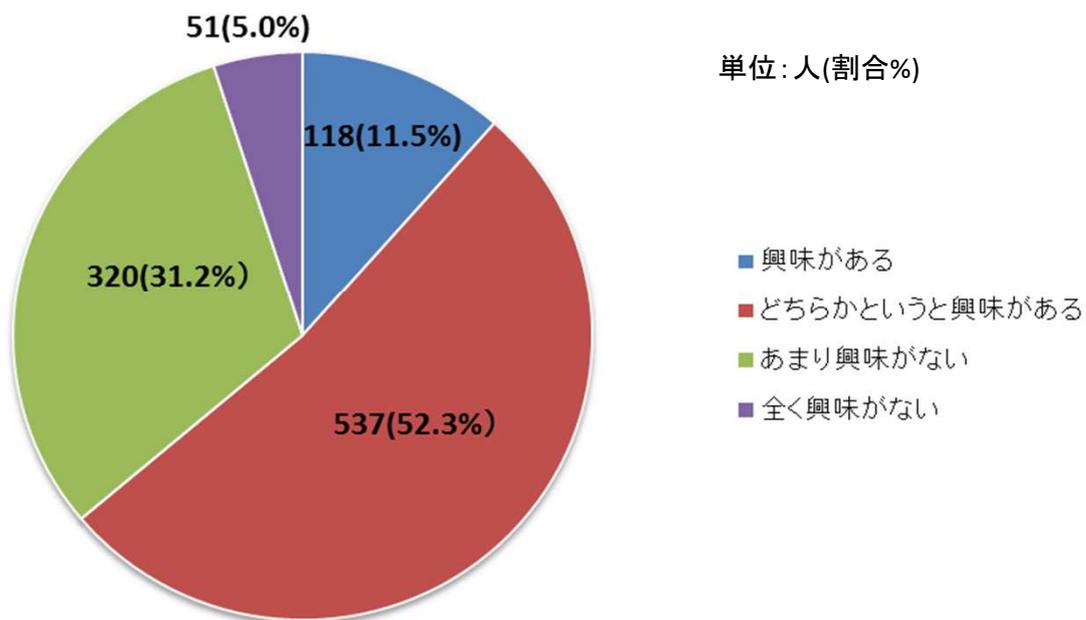
男女別割合



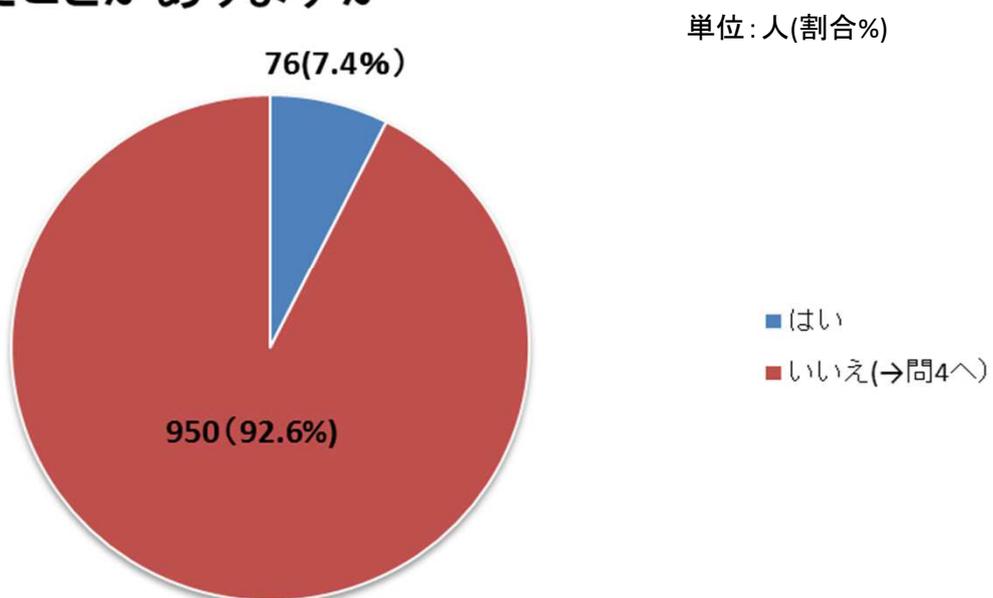
世代別割合



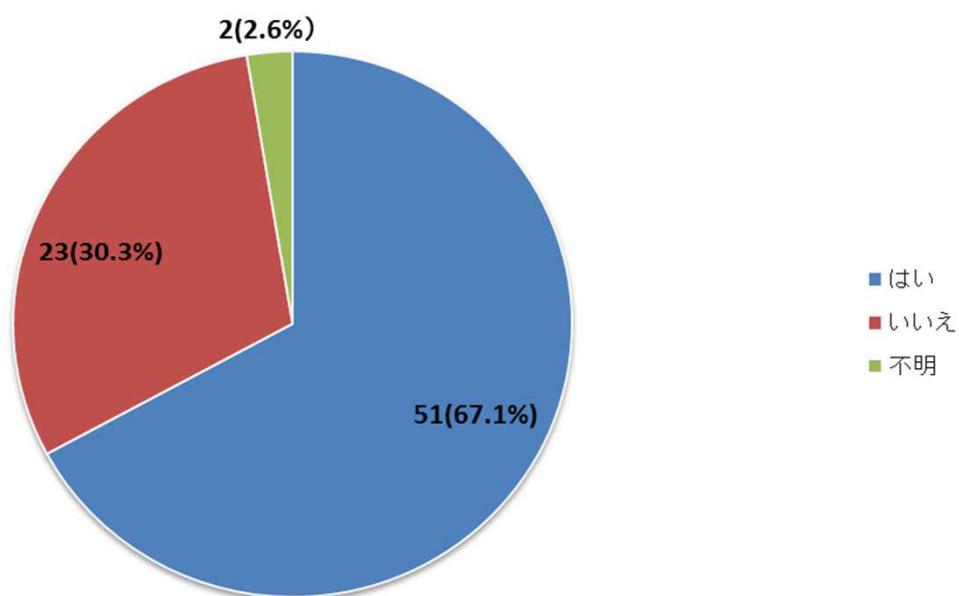
問1: ボランティア活動に興味がありますか



問2: 今までに、被災地でボランティア活動をしたことがありますか

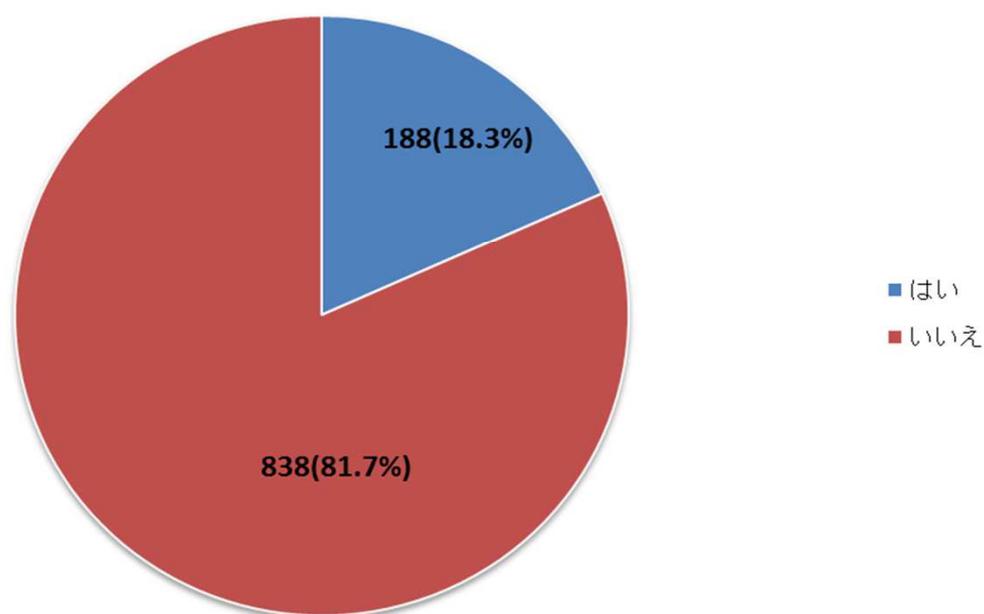


問3: 宿泊などを伴う被災地ボランティア活動でしたか
(問2で「はい」を選択した方にお聞きします)

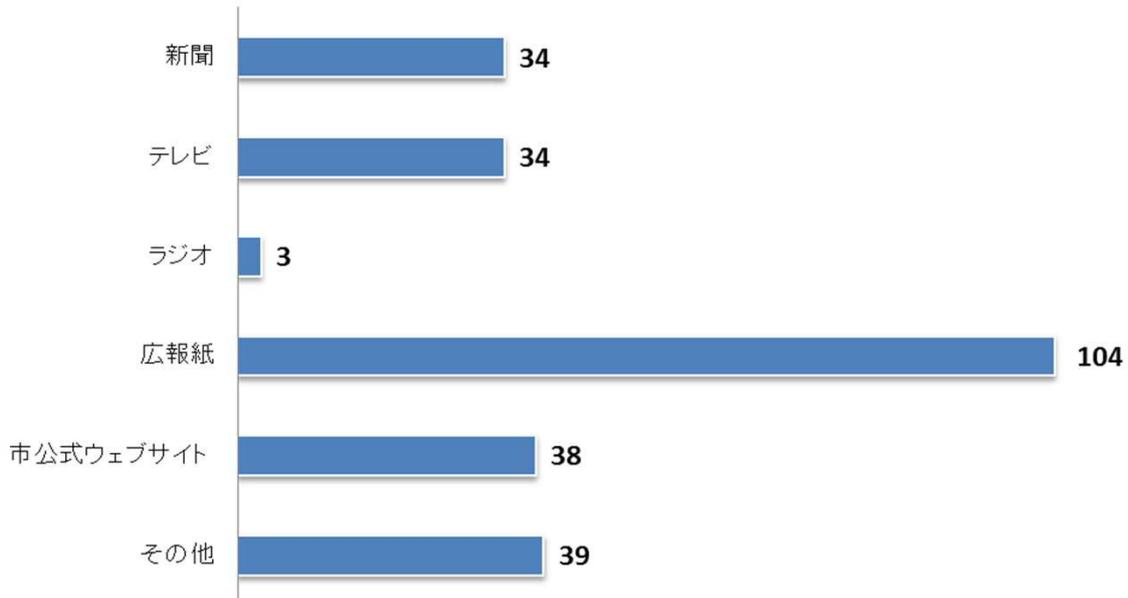


問4: 本市に、被災地でのボランティア活動に対する支援事業があることを知っていますか

単位: 人(割合%)

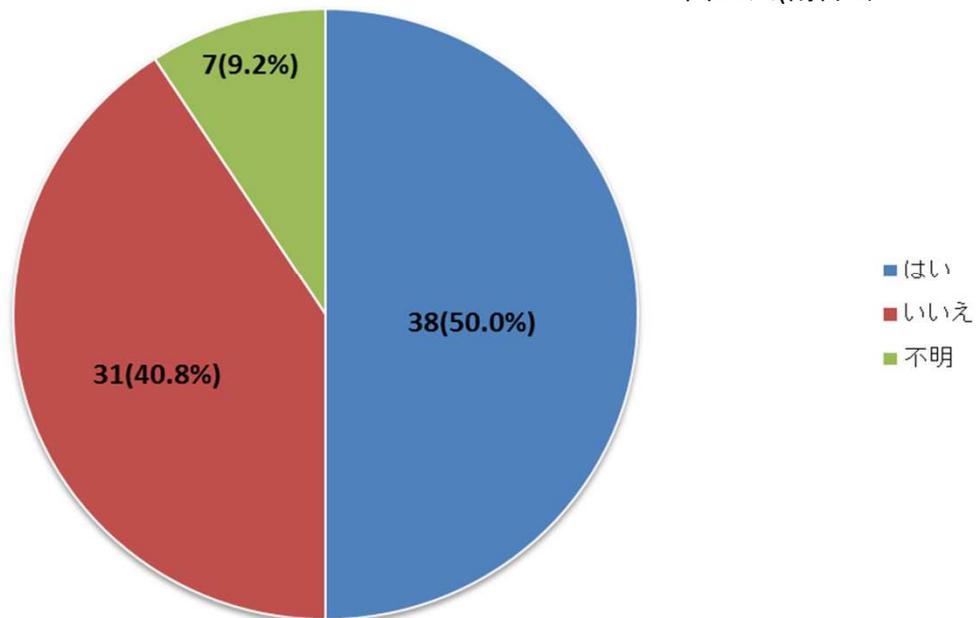


問5:どの媒体から情報を知りましたか(複数回答可)



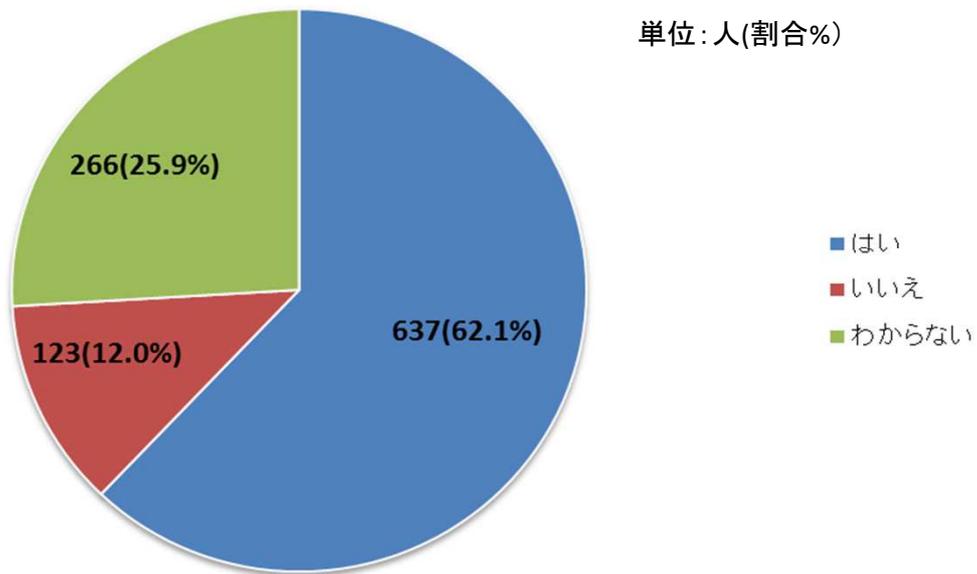
問6:今までにこの支援を受けたことがありますか

単位:人(割合%)

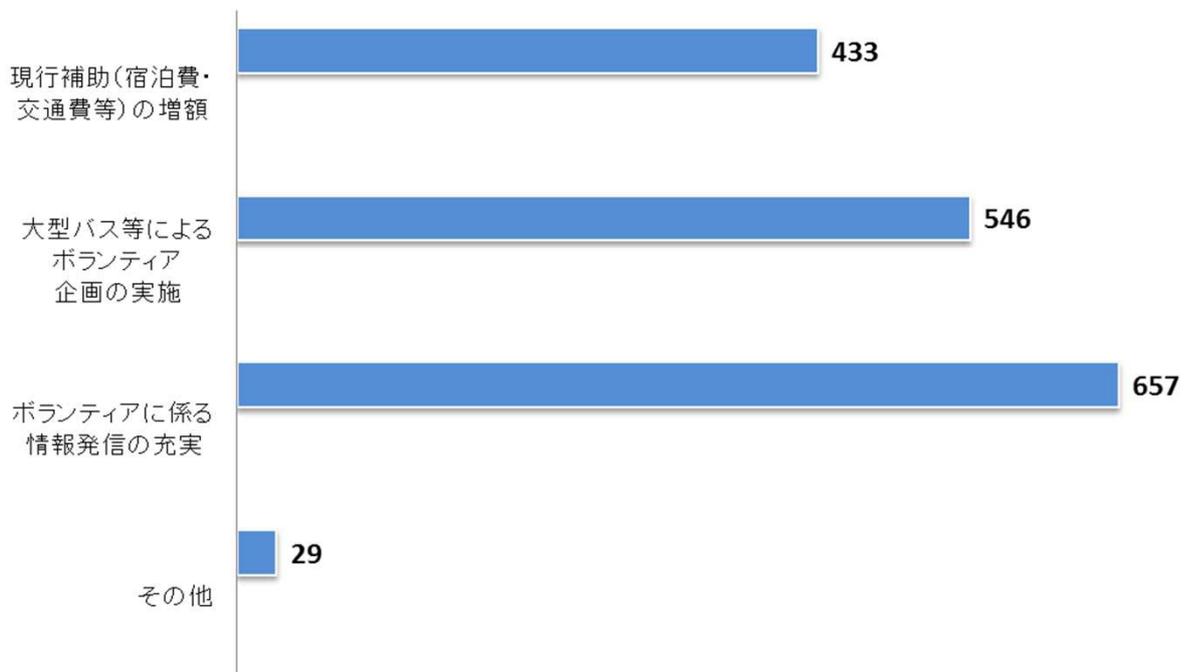


問7: 今後、利用してみたいと思いますか

単位: 人(割合%)



問8: さらにボランティア活動が積極的に行われるには、どんなものが必要と考えますか(複数回答可)



問9: 被災地ボランティア活動支援事業に関してご意見等ありましたらご記入ください

- ・素晴らしい活動なので支援は拡大すべきである
- ・高校生ですが、是非やりたいです。私の他にもやりたい高校生はたくさんいると思います！他の市とも連携して行けたらもっと積極的に行くことができるとおもいます。また、情報がもっと欲しいです
- ・ボランティアの常任委員会で補助金の事を知りました
- ・手伝えることがあれば、行きたいと思いました
- ・長く支援していく方法や、現地まで行かなくても出来るボランティアのやり方を提供してもらえたら、より多くの方がボランティアに参加出来ると思う
- ・東日本大震災、鬼怒川水害など遠方の場合は費用が嵩むので、何人か希望者を募ってやると良いと感じる。
- ・交通手段や宿泊先、活動内容等を具体例を広報やパンフレットで知らせて欲しい
- ・どこへ申し込めばボランティア登録ができるのか、詳しい情報がどうすれば手に入るのかわからない。ボランティア活動に興味があります
- ・現在の一般市民対象の参加募集企画の紹介
- ・ボランティアにいつでも行けるように市が養成講座をしてほしい
- ・今の立場だと思っても仕事(収入)との両立をどうするのが課題です
- ・ボランティアに行くきっかけがほしい。自分の意志だけでは前に進むのが難しい
- ・ボランティアの具体的な内容が明確であるとうれしい。正直、力仕事ではお役に立てないと思うので、それ以外で協力できることがあるかどうか明確であると参加しやすいです
- ・災害によって、持っていく道具、現地での服装、宿泊場、食事等はどこで調べればよいでしょうか
- ・需要と供給のバランスを明確かつ的確に把握し活かせるようにしていただけると、ありがたいです
- ・やって見たいと当時考えたが手だてが分からないのと逆に邪魔になるのではと思った
- ・もう少し情報を多く発信し、行きやすいように 交通手段等も教えたりすると、イメージし易く、積極的になれると思います
- ・被災地産の製品を購入することも立派な被災地貢献だと思います。物販も考えては
- ・遠方での支援活動の際の宿泊場所とかの情報提供など
- ・ボランティア証明書が、出ると、入試に、記載できるので、証明書が、出るとか、出ないとかも、わかると、学生は、行きやすい
- ・近年は震災が同時期に発生しているので、被災地ごとのニーズと送り出すボランティアの能力を考えたボランティア計画。特に長く支援が必要なボランティアの充実など
- ・事後申請のみで受給できることが、大変良い
- ・以前住んでいた町で10年以上国際交流に関するボランティア活動をしていました。手弁当での活動は聞こえがいいが、いざとなるとなかなか一歩が踏み出せないものです。実際に参加された多くの市民の声を広報で取り上げてください
- ・観光ツアーみたいに連れて行ってくれると安心して行ける。行っても何するか分からないとか、どこに行けばいいか分からないから行きたくても行けない人はたくさんいると思う
- ・活動状況の見える化をしてほしい
- ・今の今まで、実は安城市がこのような応援をしているとは知りませんでした。広報などで、もっと市民に広めていくといいと思います
- ・気持ちはあっても乾坤の都合で被災地へ赴くことが無理ですので、寄付くらいになります
- ・このような支援事業があることをこのアンケートで初めて知りました。今後機会があったらボランティアに参加したいと思います
- ・安城市としての支援策の方向性が伝わって来ていません
- ・物資を送りたい時の情報が欲しいです
- ・労働以外の補助は必要だと思います
- ・もっとボランティア活動内容、補助内容を分かり易く発信してほしい
- ・そんないいことが、行われている事を知りませんでした。学校PTAを通して知らせてもいいのでは？
- ・今何が求められているのかわからないので、情報がほしい。できることがあればしたい
- ・大学生を積極的に参加させると勉強になる
- ・この活動の内容を市民に知らせて欲しい。広報の記事を私が読み落としたかな？広報の1コーナーに活動状況の記事を載せるのも手かな！？毎号に掲載するなら、話題毎に別けて載せるとか
- ・職場も被災地ボランティア活動を応援してくれるとやりやすいと思います

- ・安城市として市民に積極的に活動を推進する事をお願いします
- ・安城市の企業にもそのような情報がほしい
- ・現地に行くだけでなく、行かずにできるボランティア(募金とか物資の寄付や、ホームステイしてもらったりとか、犬を預かるなど)ならしてみたい
- ・被災地に行くだけでなく、何かを作るなど、こちらにいながらでもやれることがあると協力しやすいと思います。
- ・現地の情報をボランティアをしたい人に仕事(どういう希望があるのか)をにきちんと伝えてほしい
- ・ボランティア活動なので、金銭を求めるのはおかしいかとは思いますが、交通費と宿泊代だけでも全額補助していただけると参加できます。宿泊とバスをセットで提示していただけるといいと考えています
- ・個人が被災地でボランティア活動をするために、移動手段や宿泊の手配が大変なので、行政側が手立てしてくれると助かります
- ・素晴らしい活動だと思います。細く長くでよいので続いていきますように
- ・いろんな年代の方の立場になって、様々な対応をして欲しいと思います
- ・問8にあるバスで一緒に行く事は参加しやすい活動になると思います
- ・ボランティア活動の訓練講座を開催してほしい
- ・活動するにあたり健康状態の確認、検診とかをすると安心して参加できるのではないかと思います、現地での作業内容も詳しく判れば参加しやすいのではと考えます
- 参加の意思は持っているが、仕事が長期で休みが取れない
- ・ちいさなボランティアでもしてみたいと思います
- ・自分にできることがあればボランティア活動をしたいと思っていますが、要介護の義母を含めて家族が多く身軽に動けません。家にも無理なくできるボランティア活動があれば情報を流してほしいです
- ・東北は安城から遠く、費用も掛かるので気持ちのある方が参加できるよう補助の増額がベターと思います
- ・ボランティア企画を、大々的に進めて欲しい
- ・そもそも、ボランティアで他地域の人々が駆けつけなくてもいい支援体制を国(政府)が作らなければいけないと、私は考えます
- ・被災地の方々のニーズに合ったプログラムを長く続けて行って欲しいです
- ・学生のととき阪神大震災のボランティアへ参加しました。被災者ももちろんながら、ボランティアの人の現場での安全確保も大切だと思います。一部の被災者も不安定な心理状態で治安も通常より危険といわれていました。特に女性へのフォローを意識した支援事業も必要だと思う
- ・補助制度のPRが大切、姉妹都市があったらその広報も
- ・長期で復興に取り組む活動について計画や情報発信してほしい
- ・ボランティア実施予定者への教育、必要品の貸出(各自持参するのであれば、市からの貸出品を渡すなどしたらどうでしょうか)
- ・各町内会へも働きかけができればいいと思う
- ・全然知りませんでした。継続したボランティア活動を定期的に配信していくことで、関心が高まるのではないかと思います
- ・高齢のため現地でのお手伝いが出来ません。現地で活動されている皆さんにメールを利用して感謝と応援する方法はありませんか？
- ・子供が大学生の頃支援を受けボランティアに行ったが、被災地に着くまでの運転で疲れたと言っていました。大型バスなどで連れていってくれるなら進んで参加したい
- ・ボランティアを企画化するのは、反対。ツアーではないので。増税等で生活が厳しくなる中でボランティアに費用を割ける人は多くないのでは。宿泊費を補助とかではなく、宿泊先を確保するなどボランティアの負担を極力減らした方が良く思う
- ・ボランティアであるなら、宿泊費・交通費を補助することを前面に打ち出すのではなく、宿泊先(テント、仮設小屋)や食事など行政が徹底したコストダウンを行った状態で参加費を徴収する公募方法が正しいのではないのでしょうか？
- ・小中学校等で寄付をし、市から被災地やボランティア等に使って貰えるようなシステムをお願いしたいです
- ・ボランティア支援の情報は公民館などにチラシを張っておくと目立つかもしれない
- ・SNSによる情報(質の高い&スピード速い)公開を期待する
- ・必要なボランティアの内容は時間と共に変わります。その情報や行った先での活動においてリーダーシップを取ってくれる人や組織が必要だと思います
- ・ボランティアコーディネーターも増やしていくべきだと思う
- ・ボランティアといってもたくさんあり、中には非営利組織なのに搾取していたりするので参加者したくとも怪しくて参加をためらう